

# 雨量に注意する習慣をつけましょう

気象予報などを見るときには、雨量にも気を配る習慣をつけましょう。自宅周辺の雨量を測ることで、自宅周辺の土砂災害の危険の高まりを把握しやすくなります。右図の雨量が土砂災害発生危険が高まる目安とされています。

高さ10cmのカップ酒の瓶を使うと風で倒れにくく便利です



# 前ぶれ（予兆現象）に注意しましょう

**発生前には...**

**がけ崩れの**

- がけに割れ目が見える
- がけから水が湧き出ている
- がけから小石がぱらぱら落ちてくる

**発生前には...**

**土石流の**

- 急に川の流が濁り、流木が混ざっている
- 雨が降り続けているのに、川の水が下がる
- 山鳴りがする

**発生前には...**

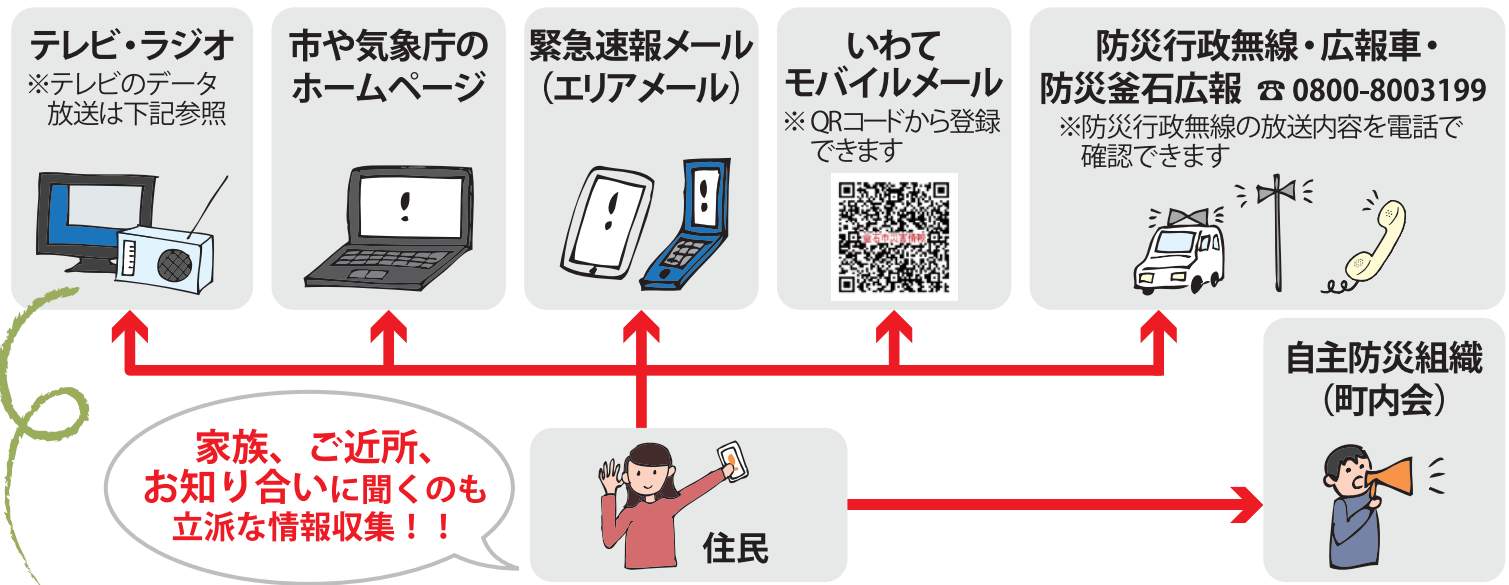
**地すべりの**

- 沢や井戸の水が濁る
- 地面にひび割れができる
- 斜面から水が噴き出す

**この他にも...**

- 地鳴り、木根のちぎれる音、岩の割れる音などがする
- ものの腐ったようなにおい（腐葉土、下肥のにおい）がする
- 小動物が異常行動（騒ぐなど）をとる など

# 情報を積極的に収集し、避難対応に活用しましょう



データ放送での確認方法 地デジテレビでNHK (地デジ1ch) を選択し、リモコンの**d** ボタンを選択

- 1 防災・生活情報を選択**
- 2 確認したい情報を選択**
- 3 河川の水位・雨量を確認**

# 駒木不動沢町内会 自主避難計画

当町内会では、住民全員が**雨の量**や**周辺の様子**に注意し、地域で避難開始を判断して住民全員で避難する仕組みをつくりました。以下の項目をみんなで実践しましょう。

- 1 日頃からやっておくこと**
  - 洪水・土砂災害緊急避難地図 (中面) を参考に、**大雨が降ると確認されるいつもと違う現象**や、自宅周辺の**比較的安全と思われる場所や建物**、**避難経路**、**住民間の連絡方法**を確認しておきましょう。
  - カップ酒の瓶などを用いて、雨量を計測する習慣をつけておきましょう。

- 2 雨が降り始めたら、自宅周辺の状況に注意を払う**
  - 土砂災害が起こる目安の雨が降っていないか、家の外の様子を確認しましょう。(※ **1時間に20mm**、**連続雨量で100mm**の雨で土砂災害が起こりやすいと言われています。)
  - **自主避難の基準** となる現象が起きていないか、自宅周辺の様子を確認しましょう。

- 3 自主避難基準に達したら、町内会役員等に報告して、すぐに避難対応!**  
→状況を共有して町内会みんなで避難対応!

**自主避難基準** 以下のような状況になったら、自主避難を開始してください。

- 釜石市役所が**“避難準備・高齢者等避難開始”**、**“避難勧告”**、**“避難指示 (緊急)”**を発令した場合
- **1時間雨量 40mmを超えた場合**
- **連続雨量 100mmを超えた場合**

(当面の運用基準) ※雨の降り方を考慮し定期的に更新予定

※上記以外の状況でも避難が必要と思う状況になった場合や、台風接近などで早い段階で大雨が予想される場合においても、身を守ることを第一に考えた避難対応をしましょう。

**いざというときの避難対応**

遠くまでの避難が困難な場合には、周辺の様子に注意して、身の安全を第一に考えた対応をとってください。

状況によっては **自宅に留まることが最も安全な場合もあります**

→ **比較的安全と思われる場所や建物**へ避難

なお、すでに道路が冠水しているなど、**移動に危険が伴う場合は**、

→ **がけや沢から少しでも離れた頑丈な建物の2階以上**へ避難

※このような状況になる前に避難を決断することが重要です

※この計画は平成29年10～12月に実施した「洪水・土砂災害に対する警戒避難体制の整備支援事業」を通じて、駒木不動沢町内会・駒木町内会として検討したものです。

# 洪水・土砂災害緊急避難地図

## 駒木不動沢町内会

現在の技術では正確な雨量予測や災害発生地の特定が難しいため、避難勧告等に依存しすぎず、**地域住民自らで危険に気づき、いざというときに避難の判断につなげる**ことが大切です。

### 住民懇談会で把握した情報

- 比較的安全と思われる場所や建物
- 自主避難の基準
- 大雨が降ると確認されるいつもと違う現象
- 過去に発生した災害
- その他の事柄

### 土砂災害の危険性

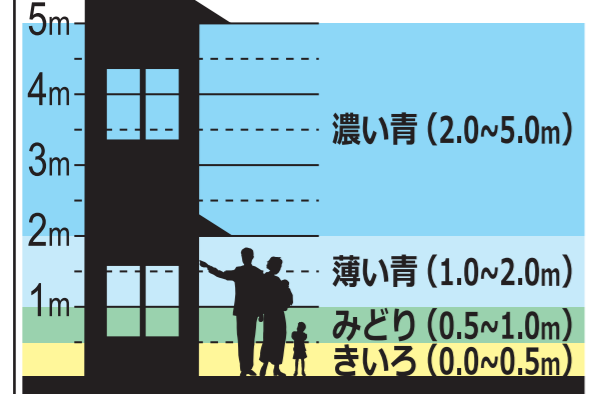
(岩手県砂防基礎調査結果および土砂災害対策検討図に基づく)

- 土砂災害の危険性が**特に高い**区域 (急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)・土石流)
- 土砂災害の危険性が**高い**区域 (急傾斜地(がけ崩れ)の崩壊)
- 土砂災害の危険性が**高い**区域 (土石流)

机上調査での結果を示しています。そのため、現地調査の結果によっては、範囲が修正となることがあります。

### 洪水ハザードマップ

(甲子川浸水想定区域図に基づく)



【平成30年3月作成】

- ① 2つある流路のうち片方が土砂で詰まり水路からあふれ出した
- ② あふれ出した土砂は3方向に流れていった
  - 倉庫のある方向
  - 寺務所の北側方向
  - 寺務所の西側方向 (一段低い場所に建つ寺務所にぶつかって流れが分かれた)
- ③ 寺務所に当たって土石流が止まった1.5mほどの高さまで土砂が堆積した
- ④ 倉庫の中に大量の土砂が流入して土石流が止まった(倉庫北側の窓をやぶり倉庫の中のものがほとんどダメになった)

**土石流**  
(平成29年台風18号)  
下流で①~④の事態が起こった

**“避難準備・高齢者等避難開始”、“避難勧告”、“避難指示(緊急)”が発令された場合**

**連続雨量100mmを超えた場合(当面の運用基準)**  
※雨の降り方を考慮し定期的に更新予定

**1時間雨量40mmを超えた場合(当面の運用基準)**  
※雨の降り方を考慮し定期的に更新予定

強風によって20m程のイチョウが幹の部分から折れて寺の母屋を直撃した  
(平成28年台風10号)

大雨が降ると坂を勢いよく雨水が走る

大雨が降ると水路から水があふれ出てくる

木の根に支えられた大きな岩が本堂裏にある

泥水がたまりやすい

お墓の敷石下の地面が雨で流れ落ちていて敷石が大きく傾くほど崩れている(墓地から約5m下の駐車場に崩れ落ちた土砂が溜まっている)

がけ崩れ (平成8年頃)

がけ崩れ (平成14年台風6号)

1時間雨量40mm程度の大雨で流木や石が引っかけた  
(平成14年台風6号)

がけ崩れ (平成14年台風6号)

斜面にヒビが入っている

水がたまりやすい

甲子川

甲子川があふれそうになった  
(平成28年台風10号)

甲子川下流方向から逆流してくる水や坂を下ってくる水で浸水する

甲子川の水位が上がると沢水が排水できないため冠水する恐れがある(大雨の時は、甲子川の水位やグレーチングの周辺の監視が必要)

線路の下をくぐる地点は(アンダーパス) 頻りに大雨で冠水し通行止めになることが多い

がけから常に水がしみ出て道路に水が流れている 拳よりも大きな落石が道路に落ちてくる(日頃気づいたときに道路端へ落石を退けている)

**釜石小学校 (4階建)**  
※避難時間に余裕のある場合3階以上で対応

浸水被害 (平成14年台風6号)

擁壁(2016年完成)を伝って旧道から雨水が滝のように流れ落ちて来る

釜石大槌地区 行政事務組合消防本部

